

# 都立図書館在り方検討委員会 最終報告

## ～AI時代の都立図書館像～

令和3年3月 都立図書館在り方検討委員会



# はじめに

- 都立図書館は、明治41年に東京市立日比谷図書館が開館してから現在に至るまで、時代の変化に応じて新しい役割を担いながら、多様な活動を支援してきました。
- 急速に進む少子高齢化や働き方の変化、AI（人工知能）※等の先端技術の進展など、社会情勢が急激に変化しています。これらは、テレワークの進展やオンライン会議ツールの活用など、コロナ禍でさらに加速しています。また、文化庁で図書館に関する著作権法改正に向けた動きもあり、注視する必要があります。  
このように、社会情勢が変化しつつある中、東京の社会、経済、産業、教育、文化等の発展に貢献するため、利用者の多様な学習活動や調査研究活動を支援していくことが必要です。
- 都立図書館は、都民へのサービスを担う図書館として、子供や高齢者、障害者、在住外国人、海外からの来訪者などにも配慮し、多様な利用者が活用しやすい図書館を目指す必要があります。
- 本委員会では、20年後、そしてその先の東京を見据えながら「AI時代における新たな図書館のサービス、施設」に焦点をあて、未来の都立図書館の在り方を検討しました。本報告では、検討委員会での議論をまとめ、今後の検討を進めていくための論点を整理しました。



東京市立日比谷図書館正面写真  
(都立中央図書館特別文庫室所蔵)

令和3年3月 都立図書館在り方検討委員会

※AI（人工知能）・・・人間の脳が行っている知的な作業をコンピュータで模倣したソフトウェアやシステム。  
具体的には、人間の使う自然言語を理解したり、論理的な推論を行ったり、経験から学習したりするコンピュータプログラムなどのことをいう。（平成29年7月「東京都ICT戦略」より）

# 目次

---

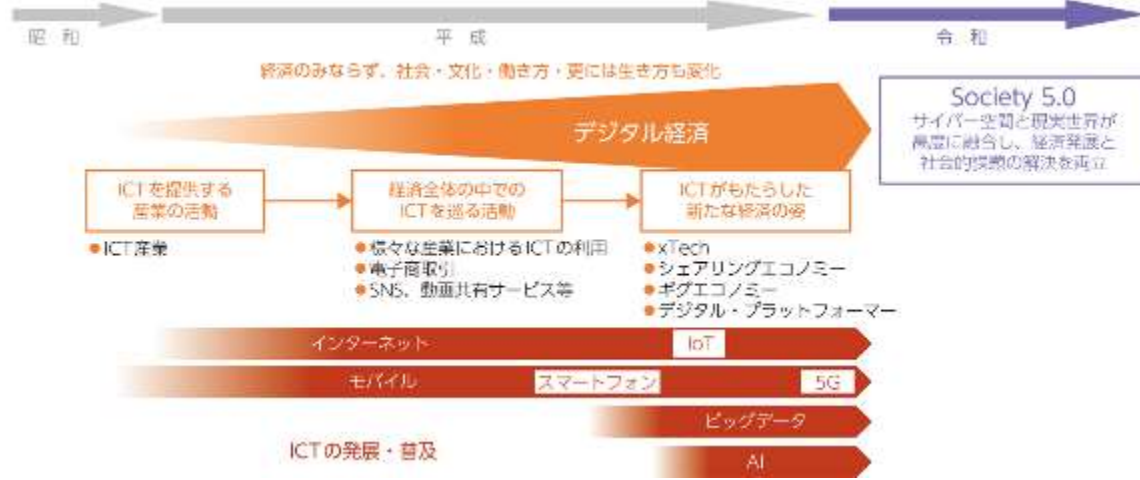
1	検討の背景・目的	4
2	都立図書館の現状と課題	6
	(1) 都道府県立図書館の類型	7
	(2) 都立図書館と関連する図書館の役割分担	8
	(3) 都立図書館の概要	10
	(4) 都立図書館の現状	13
	(5) 東京の社会課題と都立図書館の必要性	14
	(6) 都立図書館の課題	15
3	他図書館の参考事例	16
4	今後求められる都立図書館の役割	18
	(1) デジタル技術を駆使したサービスの充実	20
	(2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進	24
	(3) 東京の図書館ならではの施設・運営の追求	28

# 1 検討の背景・目的

---

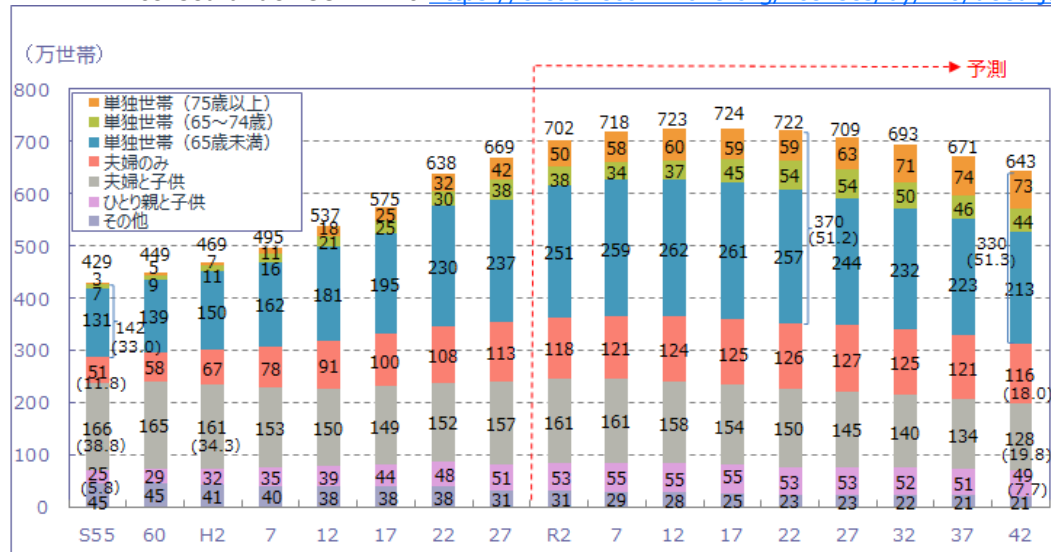
# 1 検討の背景・目的

急激な環境の変化に対応する、図書館の在り方検討が必要



出典：「令和元年版情報通信白書」（総務省）

<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r01/html/nb000000.html>  
licensed under CC BY 4.0 <https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>



出典：『「未来の東京」戦略ビジョン』（令和元年12月、東京都）

## デジタル技術の進展

AI、IoT、5Gなど、新技術の社会実装が世界中で進行しており、コロナ禍で世界中でデジタルツールの活用は一層加速。

東京都では、東京版Society5.0である「スマート東京」を実現することにより、都民のQOLを向上させるとともに、世界のモデル都市となることを目指しており、DX（デジタルトランスフォーメーション）を進める。

## 社会情勢の変化

東京都の人口は令和7年に1,417万人でピークを迎えたのち、令和42年には1,192万人まで減少し、人口構成の激変が見込まれる。少子高齢化が進むほか、在住外国人の増加も予想されている。

## 施設の老朽化

都立中央図書館は築48年が経過し、老朽化が進行。雨漏りや冷暖房の不調などが発生しており、当面必要最低限の改修・設備更新などを行っている。

長期的な視点で、東京の新たな図書館の役割、施設、運営・サービスの在り方を検討する必要性

## 2 都立図書館の現状と課題

---

# (1) 都道府県立図書館の類型

都道府県立図書館は「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」に、設置・運営の基本が定められている

「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」（平成24年12月19日文部科学省告示第172号）

	設置の基本	運営の基本
都道府県立図書館	<ul style="list-style-type: none"><li>・都道府県立図書館の拡充に努め、住民に対して適切な図書館サービスを行う。</li><li>・図書館未設置の町村が多く存在することも踏まえ、当該都道府県内の図書館サービスの全体的な進展を図る観点に立って、市町村に対して市町村立図書館の設置及び運営に関する必要な指導・助言等を行う。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市町村立図書館に規定する事項に努める。</li><li>・住民の需要を広域的かつ総合的に把握して、資料及び情報を体系的に収集、整理、保存及び提供すること等を通じて、市町村立図書館に対する円滑な図書館運営の確保のための援助に努める。</li><li>・県内の図書館間の連絡調整等の推進に努める。</li></ul>
【参考】市町村立図書館	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民に対して適切な図書館サービスを行うことができるよう、住民の生活圏、図書館の利用圏等を十分に考慮し、市町村立図書館及び分館等の設置に努める。</li><li>・市町村立図書館と公民館図書室等との連携を推進することにより、当該市町村の全域サービス網の整備に努める。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識基盤社会における知識・情報の重要性を踏まえ、資料（電磁的記録を含む。以下同じ）や情報の提供等の利用者及び住民に対する直接的なサービスの実施や、読書活動の振興を担う機関として、また、地域の情報拠点として、利用者及び住民の要望や社会の要請に応え、地域の実情に即した運営に努める。</li></ul>

# (2) 都立図書館と関連する図書館の役割分担

都立図書館は、都道府県立図書館として、区市町村立図書館と役割分担しながらサービスを提供

都立図書館の主な役割：①都民に対する資料提供、②区市町村立図書館への支援、③都内図書館間の連絡調整等の推進

	国立国会図書館	都立図書館	区市町村立図書館	大学図書館	学校図書館
設置根拠	国立国会図書館法 (昭和23年)	図書館法 (昭和25年)		大学設置基準 (昭和31年)	学校図書館法 (昭和28年)
役割 ・ 機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・納本制度のもと、国内の出版物の収集・保存</li> <li>・国会、行政、司法への支援</li> <li>・国民への資料提供</li> </ul>	一般公衆の教養、調査研究、レクリエーションに資する  <ul style="list-style-type: none"> <li>・都民の課題解決の総合的な窓口の役割</li> <li>・都内区市町村立図書館の支援</li> </ul>	地域の実情に即したきめ細かな直接サービスを行う	学生の学習、及び高等教育・学術研究活動を支える学術情報基盤	学校の教育課程の展開に寄与するとともに、児童又は生徒の健全な教養を育成
サービス対象	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会・行政・司法</li> <li>・国民</li> <li>・国内の図書館</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都民、都内の学校、行政</li> <li>・都内区市町村立図書館</li> </ul>	当該自治体の住民、学校、行政	教職員、学生	児童生徒、教職員



# (2) 都立図書館と関連する図書館の役割分担

	国立国会図書館	都立図書館	区市町村立図書館	大学図書館	学校図書館	
資料	蔵書の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内出版物を網羅的に収集</li> <li>デジタル化・マイクロ化済みの原資料は、適切な保存対策の上、原則提供しない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>原則1点のみ収集し、国内公立図書館で最大級の蔵書数</li> <li>広範囲かつ豊富な蔵書。特に専門性にも留意し収集。社会科学が最も多く、中央図書館では文学より自然科学や技術の本が多い。</li> <li>東京マガジンバンク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>館数や予約状況に応じて複数点収集する場合もある。</li> <li>全体的な傾向として、文学や実用書の割合が大きい。</li> <li>一定期間で除籍・廃棄する。</li> </ul>	学術図書、学術雑誌などを中心に収集	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に児童生徒向け</li> <li>教材資料の収集</li> </ul>
	資料費 ※『日本の図書館 2019』より	約23億6,000万円 ※令和元年度予算、納入出版物代償金含む	<b>3億2,188万3千円</b>	2億3,131万円 (大田区立図書館16館) ※都内区市町村のうち最大	2億1,657万4千円 (成蹊大) 2億3,057万7千円 (東京都立大) 3億1,252万円 (國學院大) 19億1,003万3千円 (東京大)	公表されておらず、他館種と比べて資料費は極めて小さい。
サービス	特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>東京本館、関西館、国際子ども図書館で国民にサービスを提供</li> <li>全国の図書館等からのレファレンス依頼に対応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査研究に役立つ高度・専門的レファレンスサービス</li> <li>都内区市町村立図書館等からのレファレンス依頼に対応</li> <li>資料保全の研修等を行い、全国の図書館にノウハウを共有</li> </ul>	主に教養・レクリエーションに役立つ、地域住民の生活に寄り添った身近で利用しやすいサービス	学生の学習支援と、学術研究活動を支える、専門的で高度なサービス	児童生徒の読書センター、学習センター、情報センターとしてサービスを提供
	各館でできること	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者が必要な資料を選択して請求すれば、幅広い調査研究が可能</li> <li>相談は、他図書館への相談を経て必要と判断されるときに可能 (他館職員を通じた相談)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央図書館では、特にビジネス、法律、医療や東京に関する資料が充実しており、多くの資料が開架で利用可能</li> <li>高度な調査研究、様々な相談が即座に可能。誰でもきめ細かい相談対応を受けながら、高度な調査研究を進められる。</li> </ul>	必要な資料が入手でき、文書の書き方や冠婚葬祭、手芸、DIYの資料・情報など、身近な暮らしに関わる相談が可能	教職員・学生は、海外を含む専門分野の資料が充実しており、専門的な調査研究が可能	児童生徒、教職員は、読書や授業で使う資料などについての相談が可能

# (3) 都立図書館の概要

中央図書館及び多摩図書館の2館で機能を分担し、一体的に運営

## 都立中央図書館

東京都港区南麻布5-7-13  
東京メトロ日比谷線  
「広尾」駅 徒歩8分



### <調査研究に役立つ豊富な資料・充実したサービス>

- 昭和48年1月開館
- 国内最大級の約210万冊の資料を所蔵
- 調査研究に役立つ図書館として、重点的情報サービス（都市・東京、ビジネス、法律、健康・医療）を実施
- その他、視覚障害者サービス、豊富な外国語資料、多言語化対応の取組、資料保全のノウハウの蓄積・発信、デジタル資料の提供（特別文庫、東京資料）などの特徴がある。

## 都立多摩図書館

東京都国分寺市泉町2-2-26  
JR中央線・武蔵野線  
「西国分寺」駅 徒歩7分



### <雑誌と児童・青少年資料サービス>

- 昭和62年5月立川市に開館、平成29年1月国分寺市に移転開館
- 「東京マガジンバンク」として、雑誌の特性を活かしたサービスを行う。「東京マガジンバンクカレッジ」では雑誌を仲立ちとした学びと交流の拠点づくりを目指す。
- 児童・青少年資料サービスでは、子供の読書活動推進の拠点として、読書相談や都内学校への支援、啓発資料の作成などを行う。

# (3) 都立図書館の概要

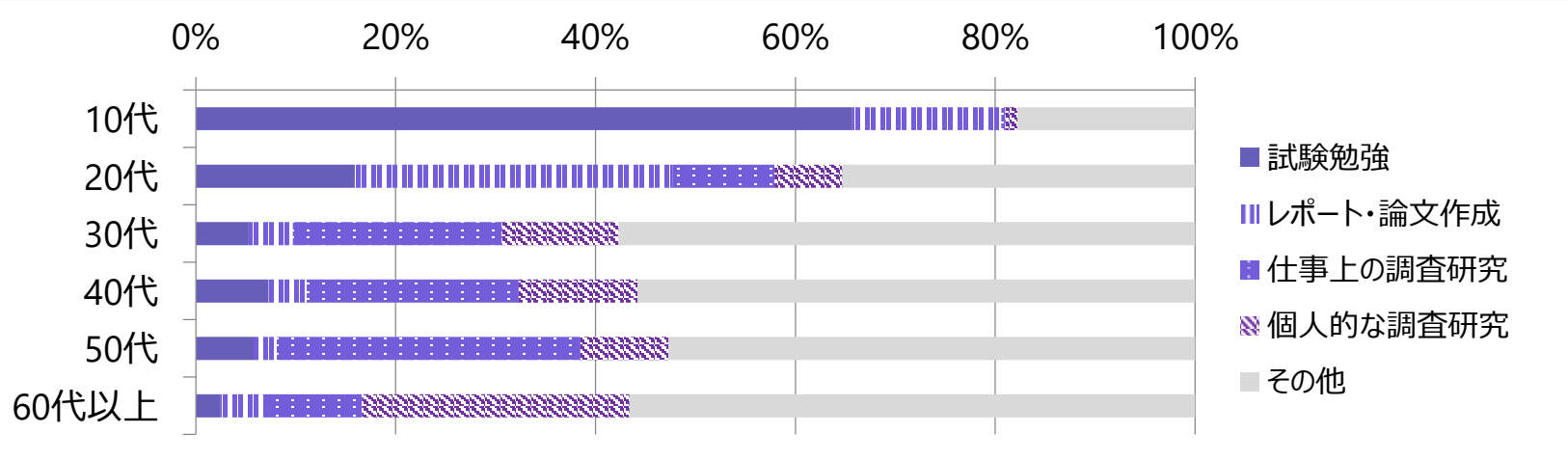
**施設概要** 出典：『事業概要』令和2年度版（東京都立図書館）

項目	都立中央図書館	都立多摩図書館
<b>基礎情報</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1973年1月開館</li> <li>・地上5階、地下2階</li> <li>・敷地面積：9,157 m<sup>2</sup></li> <li>・延床面積：23,196m<sup>2</sup></li> <li>・収蔵可能冊数：約208万冊（うち開架35万冊）</li> <li>・閲覧席数：916席（スツール席含め1,062席）</li> <li>・来館者数：年間317,700人、1日平均1,077人（令和元年度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2017年1月開館</li> <li>・地上3階</li> <li>・敷地面積：7,216m<sup>2</sup></li> <li>・延床面積：8,982m<sup>2</sup></li> <li>・収蔵可能冊数：約285万冊（うち開架10万冊）</li> <li>・閲覧席数：227席</li> <li>・来館者数：年間196,537人、1日平均666人（令和元年度）</li> </ul>
<b>施設構成</b>	<p>1階：各種受付（レファレンス、出納、複写等）、重点情報コーナー、カフェ</p> <p>2階：社会・自然科学系資料・閲覧室</p> <p>3階：人文科学系資料・閲覧室、視覚障害者サービス室</p> <p>4階：企画展示室、グループ閲覧室、多目的ホール</p> <p>5階：特別文庫室、調査研究ルーム、交流ルーム、キッズルーム、カフェテリア</p> <p>地下1階・2階：書庫</p>	<p>1階：総合案内、閲覧エリア（雑誌、青少年資料等）、展示エリア、資料お渡し・返却カウンター、グループ閲覧室、こどものへや、対面音訳室・録音音訳室、相談カウンター、開架書庫、カフェ</p> <p>2階：セミナールーム</p> <p>3階：書庫</p>

# (4) 都立図書館の現状

## 図書館利用の目的

※「図書館利用の目的」と「利用者の要望」は、中央図書館に対するものである。



参考：『平成30年度都立図書館利用実態・満足度調査』

## 利用者の要望

コレクション充実、開館時間の延長、閲覧席・空調などの施設・設備の改善、職員の専門知識等

参考：『平成30年度都立図書館利用実態・満足度調査』

## 非利用者の要望

一般書、各分野の新しい本・新分野の本、蔵書検索、デジタルアーカイブ等オンラインサービスの充実、じっくり調べものができる閲覧席等

参考：『平成30年度都立図書館のニーズに関する実態調査』

## 図書館利用の傾向

- 入館者数は増加傾向にある。来館者は、図書館の近隣区市町村に在住・在勤・在学の利用者が多いが、中央図書館は他県など遠方からの利用も多い。
- 職員やスタッフの対応、蔵書の質・量、レファレンスサービスの利用者満足度は高い。
- レファレンスサービスの質問件数は横ばいで、メール等の非来館者向けのレファレンスサービスの利用が増加している。
- 蔵書検索サービスの利用回数はほぼ横ばいである。都内の公立図書館等の蔵書の統合検索サービスの利用回数は減少傾向にある。

## 図書館の取組

- 区市町村立図書館への図書の協力貸出やレファレンスサービスの支援、職員への研修などを行っている。
- 館内のみで利用できる電子書籍（日本語1,402点、英語1,030点）、オンラインデータベース（34種）を提供している。
- 調査研究ルーム（平成29年度～）、交流ルーム（平成30年度～）の設置、手荷物持込制限の緩和など、図書館の利便性向上に努めている。
- 企画展示や講演会、図書館ツアーやショートセミナーなど、来館者向けの各種イベントを数多く実施している。
- 全国公共図書館協議会（公共図書館相互の連絡を密にし、調査研究を行い、図書館の発展を図ることを目的とする組織）の事務局を務める。

# (5) 東京の社会課題と都立図書館の必要性

首都・東京  
の社会課題

- ・急速なデジタル技術の進展、雇用・就業形態の多様化、高齢化に対応した医療・介護等  
→社会経済状況が変化することで、新たな知識や情報が絶えず必要になる  
⇒都民や企業等が、各々の課題解決のための知識・情報を必要としている

都立図書館  
が果たして  
きた役割

都立図書館

中央図書館（中心館）と多摩図書館（雑誌と児童・青少年サービスに特化）で機能分担

- ①多様な課題に直面する都民（個人・団体）に対し、広範囲かつ豊富な蔵書を整備し、提供する。  
きめ細かいレファレンスサービスにより都民の課題解決の総合的な窓口としての役割を担う。

→中央図書館では、都民の重要課題であり、都民の課題解決に貢献できるテーマ（ビジネス、法律、健康・医療）については「重点的情報サービス」として取り組んできた。

これらは、図書館における課題解決サービスの先進事例として、他の図書館のモデルとなった。

- ②区市町村立図書館への支援

→課題解決型の図書館として区市町村立図書館では収集の難しい専門書等の収集、それらの協力貸出や協力学レファレンス、職員研修等を行い、都内図書館のレベルアップに努めてきた。

都立図書館  
の必要性

- ・グローバル化が進む世界経済、第四次産業革命のうねり（デジタル技術の進展）、少子高齢・人口減少社会等に直面  
→上記の問題は一層加速。加えてダイバーシティへの対応等、新たな課題もある。
- ・世の中の動きは極めて速く予測不可能な社会に  
→不確実な時代を生きるには、一人ひとりが自らの希望や意思に基づいて、人生を選択していけることが重要  
→必要な知識・情報を調べ、課題を解決していく

⇒今後、都立図書館は、都民や都政の課題、都の社会課題の解決を支援し、より良い社会を切り拓くための機関として、時代に合ったサービスを行っていく。また、すべての都民の生涯学習を支える図書館としての使命を果たし、新たな役割を担う図書館へ発展していく必要がある。

# (6) 都立図書館の課題

- 都立図書館は、「東京の未来を拓く力となる知の集積・発信」を使命に掲げ、経験豊富な職員と充実した蔵書によるサービスを行い、国際都市・東京を情報面から支え、都民や都政の課題解決を支援してきた。
- しかし、変化のスピードが早く、予測不能な社会においてこの使命を達成するためには、以下の課題を解決する必要がある。

## 01

### AI時代への対応の遅れ

- デジタル技術が進展し、情報検索などが容易になっている中、図書館の検索システムなどは新しい技術に十分対応できていない。
- 様々な形態の情報が登場する中、扱うものは紙の本が中心であり、デジタルコンテンツの提供は今後更に充実する必要がある。
- 新しい技術を上手く取り入れるなど、時代に応じたサービスへとアップデートしていく必要がある。
- コロナ禍でDXの遅れが顕在化。

## 02

### 来館サービスへの偏重

- 本の閲覧や各種イベントなど、現在のサービスは来館を前提としたものが多い。
- 立地的・時間的制約から、来館しにくい都民もおり、約1,400万人の全都民に対するサービスが提供できていない。
- 超高齢化社会が到来する中、外出が困難な都民も増えると見込まれることから、非来館サービスの充実が必要である。

## 03

### 情報の創造・発信が不十分

- これまで図書、記録、その他必要な資料を収集・整理・保存・提供という基本的な機能・役割を果たしてきた。
- 図書館の利用は、個人の調査研究が主流であり、他の利用者との交流といった利用はあまり浸透していない。
- 今後は、情報を蓄積するだけでなく、図書館の蔵書や場所を活用して、人々が交流し、新たな知識を創出し、発信する場所への転換が必要である。

### 3 他図書館の参考事例

---

# 3 他図書館の参考事例

■ 国内外の先進事例には、次の6つの共通点が見られる。

## 優れた空間設計

明るく開放的な空間、風格のあるデザインなど

## 職員の専門性

司書職のみならず、社会課題に応じた専門職の活用

## 人々の関心を引きつけるイベント

様々な利用者に焦点を当てたイベント、イベントで賑わいを演出

## 魅力的なコレクションと本棚

蔵書の充実だけでなく、利用者のニーズに沿った使いやすい本棚づくり

## 効果的なデジタル活用

利用者向けサービス、バックヤードの業務へのAI活用

## 住民ニーズの把握

住民ニーズを把握し、図書館運営に活用



優れた空間設計（例）  
明るく開放的な閲覧室



効果的なデジタル活用（例）  
本棚への案内のロボット

※いずれもヘルシンキ市立中央図書館「Oodi」の事例



## 4 今後求められる都立図書館の役割

---

## 4 今後求められる都立図書館の役割

- 都立図書館は、都の社会課題の解決を支援し、より良い社会を切り拓くための施設として、時代に合ったサービスを行っていく。また、デジタル技術の活用により、都内区市町村立図書館への支援、図書館間の連絡調整等を一層推進し、都内区市町村立図書館と協働関係を築くことで、すべての都民の生涯学習を支える図書館としての使命を果たしていく。
- 東京都は日本の首都として「東京と地方の共存共栄」の実現を目指している。都立図書館は、首都の図書館として、新しい技術を取り入れたサービスを行うなど、先進的な取組を積極的に実践していく。これらの実践を都内区市町村立図書館のみならず、全国の公立図書館のモデルとなり、日本の図書館界の発展に寄与する。

### 01

オープンデータによる資料提供や、AI等の新技術の導入等、デジタル技術の進展に対応したサービスを提供する図書館へ

### 02

どこでも、誰でもサービスを楽しむインクルーシブな図書館へ

### 03

都民をはじめ利用者の研究・交流を支援し、新たな知識を生み出す図書館へ

- 上記3つの役割を担う図書館へと発展していくため、
  - ① デジタル技術を駆使したサービスの充実
  - ② デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進
  - ③ 東京の図書館ならではの施設・運営の追求の観点から、都立図書館の新しい機能を検討していく。

# (1) デジタル技術を駆使したサービスの充実

## 将来の都立図書館で実現すべきサービスの姿

- 都ではあらゆる産業や生活の場面で、データや最先端技術を駆使した質の高いサービスが提供される、東京版Society5.0「スマート東京」の実現を目指している。
- 都立図書館においても、AI等の最先端技術を積極的に取り入れることで、既存のサービスのレベルアップを図るなど、より質の高いサービスを追求している。
- 一方、デジタル技術の活用に伴い、情報格差が広がる懸念がある。すべての都民の生涯学習を支える都立図書館としても格差是正に 대처している。
- デジタル技術の特徴や課題等を理解した上で、人と機械それぞれの強みを活かしたサービスを検証の上、設計している。
- デジタル技術の進展に対応し続けられるよう、通信ネットワーク環境やデジタル人材の確保等、デジタル技術を活用したサービスの基盤となる仕組みを構築した上で、様々なサービスを持続的に展開している。



先端的なサービス追求



社会的包摂

### デジタル技術を活用したサービスの基盤となる仕組みづくり

- ・安定した通信ネットワークとコンピューターシステムの整備
- ・サービス研究開発専門部署の設置など、持続的な運営・体制づくり
- ・図書館におけるデジタル人材の確保（育成、登用）

- 20年後のデジタル技術の状況を予測するのは困難であるが、先端的なデジタル技術を活用しつつ、デジタルデバイドを生じさせないように発展させる必要がある。将来の都立図書館で実現すべき情報サービスの姿に向けて、以下の3つについて、都内区市町村立図書館との適切な役割分担と連携を想定しつつ、「先端的なサービス追求のための取組／社会的包摂のための取組」の観点から検討していく。

**ア デジタル技術を活用した情報サービスの強化、イ デジタル技術を活用した新たな情報サービス、ウ 業務面からとらえたデジタル技術活用の方向性**

# (1) デジタル技術を駆使したサービスの充実

## ア デジタル技術を活用した情報サービスの強化

- ▶ 時間的、立地的な制約等、これまでのサービスの障害をデジタル技術により取り払う。

### 将来の都立図書館で実現すべきサービスの姿

来館せずとも、全ての図書館サービスを利用することができ、いつでも、どこでも、誰でも、正しく信頼できる知識や情報を得ることができている。

- デジタル技術の活用により、都内区市町村立図書館との役割分担・連携が一層強化されている。
- 著作権やプライバシーに十分留意した上で、個人や区市町村立図書館等が資料の閲覧や複写、レファレンスサービス等を瞬時に利用することができている。
- 様々な情報収集の場面で都立図書館が活用されることで、信頼性の高い知識や情報をもとにして、都民や都政の課題、都の社会課題の解決に貢献している。
- 高齢者や入院患者等の社会とのつながりを途絶えさせないよう、来館が困難な都民の学びを支えるため、福祉分野等の関係機関と連携した仕組みづくりに取り組んでいる。

### 具体的な取組例

#### 先端的なサービス追求

- 個々のニーズに応じたレコメンド機能
- デジタルでのコピーや配信
- オンライン（ビデオ、チャット等）によるレファレンスサービス

#### 社会的包摂

- 直感的で使いやすい検索システム
- アプリによるワンストップなサービス提供
- 時間的制約にとらわれない簡易な問合せの自動応答
- 都内区市町村立図書館への協力支援事業の充実、図書館間の相互協力ネットワーク化の更なる促進

# (1) デジタル技術を駆使したサービスの充実

## イ デジタル技術を活用した新たな情報サービス

- ▶ 新しい技術を上手に取り入れ、時代に合ったサービスを開発・実践するための仕組みをつくる。

### 将来の都立図書館で実現すべきサービスの姿

利用者が図書館で学び、交流することで新たな知識が生み出され、知識の収集から創出までのサイクルが回り続けている。

- 新たな情報サービスを開発・実践し、区市町村立図書館のモデルとなるなど、都内区市町村立図書館との役割分担・連携の仕組みの構築が進んでいる。
- 実空間と情報空間が融合した学びの場を創出し、様々な理由で来館困難な利用者が、資料利用や他の利用者との交流を行うなど、都民の生涯学習を支えている。
- 目的に応じて最適な産学官民と連携し、共同研究、実証実験等を行うことで、先駆的なサービス開発に取り組み、日本の図書館全体のサービスのレベルアップに貢献している。

### 具体的な取組例

#### 先端的なサービス追求

- 都のデジタルに係る施策を踏まえたサービス展開（シビックテックの活用等）
- 産学官民等との共同研究、実証実験等によるサービス開発
- 交流・創造・発信の場づくり
  - 利用者の調査研究成果を発信できる場の提供
  - 利用者と研究者の交流を促すイベントの充実

#### 社会的包摂

- アバターを活用した情報空間上での疑似体験
- 高齢者等の情報格差是正に向けたデジタルリテラシー講座の実施
- 開発したサービスのモデル化による区市町村立図書館への展開
- 都内区市町村立図書館でのデジタルに係るサービスの導入支援

# (1) デジタル技術を駆使したサービスの充実

## ウ 業務面からとらえたデジタル技術活用の方角性

- ▶ 人員削減や安易な合理化策を進めるという考え方ではなく、職員が専門的な業務に注力するためのデジタル技術活用を行う。

### 将来の都立図書館で実現すべきサービスの姿

デジタル技術を効果的に活用することにより、職員は専門的な能力を発揮できる業務に専念しており、持続的に成長する図書館を実現している。

- 職員はロボット・AIを使いこなし、業務の自動化が可能なものは随時ロボット・AIに移行している。  
職員は付加価値の高い業務へシフトし、人間とロボット・AIが共存して業務を行っている。
- 言語や障害等の壁をデジタル技術により解決し、誰もがストレスなくサービスを利用することができる。

### 具体的な取組例

#### 先端的なサービス追求

- (職員) ■ 先駆的なサービスの開発等の企画立案
- レファレンスサービスでの、利用者の目的に応じた情報提供
- 運営方針、サービス方針、ニーズに即した選書
- (自動化) ■ サービス利用状況等の常時把握
- 一般管理的な諸業務

#### 社会的包摂

- (職員) ■ 利用者に応じたデジタル技術活用方法の提案
- (自動化) ■ 簡易な検索、操作の支援
- 音声・入力等における多言語翻訳

## (2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進

### 将来の都立図書館で実現すべきコレクションの姿

- 紙資料ならではの保存性や利便性があり、引き続き紙資料の収集を行っている。また、著作権やプライバシーに十分留意しながら、紙資料のデジタル化・公開を行うことで、利便性を高めている。
- 高速な通信網を活用し、電子書籍、オンラインデータベース、オープンデジタル資料などの更なる拡大に対応し、デジタル資料を積極的に収集・保存・提供していく情報基盤となっている。
- デジタル資料や関連するデータを積極的に収集・保存し、オープンデータとして提供したり、来館せずとも利用できるなど、利用しやすい形で提供している。
- 江戸東京関係など、これまで重点的に収集してきたコレクションを拡充するとともに、都民が作成したコンテンツなど、都立図書館独自のコンテンツを積極的に収集し、魅力的なコレクションを構築している。

- 今後、紙資料の出版点数の減少、デジタルコンテンツの流通量拡大が予想される。将来の都立図書館で実現すべきコレクション構築の姿の実現に向けて、以下の3つについて、都民や他機関等との連携を想定しつつ、検討していく。

#### ア 社会の進展に応じたコレクション、イ 都立図書館ならではの特色あるコレクション、ウ コレクションの利用促進



紙・デジタルの良さを踏まえた  
資料収集・保存・利用促進



都立図書館ならではの特色ある  
コレクション

#### 多様な媒体のコレクションの基盤となる仕組みの整備

- ・紙資料・デジタル資料ともに、ストレージの確保・拡大、提供の仕組み
- ・国立国会図書館、全国の図書館、他機関と連携したコレクション構築
- ・コレクション構築に係る人材（デジタルアーカイブの専門家等）の確保（育成、登用）

※コレクション・・・図書館で所蔵する資料全体。図書館コレクションともいう。図書が中心である印象の強い「蔵書」に代わって、より多様な資料の集積を意味する用語として用いられている。（「図書館情報学用語辞典 第5版」より）

## (2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進

- 紙・電子媒体の保存性・保全性、利便性に係る主なメリット・デメリットについては、以下の表のとおりである。
- 現状においては、図書館が収集対象とするデジタル資料の流通が極めて少ないことや、情報の永続性が十分担保されていると言えないことから、紙資料の収集・保存が必要である。

	保存性・保全性		利便性	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
紙媒体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○半永久的に、媒体をほぼそのままの状態にて保てる。</li> <li>○一度購入すれば図書館の財産として管理（保存）できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○記録される情報量の分、印字され、物理的に収蔵スペースをとる。</li> <li>○紙特有の問題（水濡れ、虫食い等）による汚損・破損の可能性がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○再生機器が必要ない。</li> <li>○書架の本を、手に取って、すぐに読みながら探せる。</li> <li>○一覧性が高く、通覧が容易である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○情報の拡散にあたって、複写や運搬等の手間や時間を要する。</li> <li>○出版物であれば、執筆、編集、印刷等の段階があり、情報の発信までに期間を要する。</li> </ul>
電子媒体	<ul style="list-style-type: none"> <li>○大量の情報をコンパクトに格納でき、複製も容易である。</li> <li>○利用による劣化がない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○長期保存には、媒体移行、再生システムの維持などの問題があるほか、技術更新などにより、同一の情報保持が難しい。</li> <li>○導入及び運用コストが大きい。</li> <li>○利用契約によるが、基本的に図書館の財産とはならない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○インターネットに接続していればどこでも伝送できる。</li> <li>○作成や公開、発信が容易である。</li> <li>○検索や文字の拡大、音声読上など、電子情報ならではの様々な機能を活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○利用のために、特定の機器やソフトが必要になる場合がある。</li> <li>○日本の電子書籍市場の8割はコミックが占めており、図書館向けのコンテンツが少ない。</li> <li>○紙媒体と比べて、著作権等の制約が多く、収集・保存・提供にあたって著作権処理などが必要である。</li> <li>○出版社やベンダーが著作権者から許諾を得て図書館向けに設定したコンテンツしか収集できない。</li> </ul>

参考：岸田和明『図書館情報資源論』（平成31年3月、樹村房）、  
『電子書籍の流通・利用・保存に関する調査研究』（平成21年3月、国立国会図書館）  
国立国会図書館Webサイトなど



# (2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進

## ア 社会の進展に応じたコレクション

- ▶ 都立図書館のこれまでのコレクションを強みとして継承・拡充しつつ、デジタルコンテンツの収集を強化する。

### 将来の都立図書館で実現すべきコレクションの姿

これまでの都立図書館のコレクションの豊富さ・質を継続して拡充しつつ、デジタルコンテンツを積極的に収集・保存・提供する情報基盤となっている。

- 都立図書館の蔵書の評判の高さを、今後も維持している。
- 画像や動画、音声資料等のデジタルコンテンツも利用できるようになっている。
- 都内全域で等しくサービスを受けられることを視野に、紙資料のデジタル化を含めデジタルコンテンツを積極的に収集し、長期保存の体制やオンラインでの提供のためのシステムを整備している。
- 紙資料・電子資料ともに安定的に保存・提供していくため、他機関との連携体制を構築したり、書庫・ストレージを確保している。

### 具体的な取組例

#### 収集の方針

- 情報集積の拠点として、体系的なコレクションを構築・維持
- 電子書籍、電子ジャーナルの提供数拡大

#### デジタルコンテンツの収集強化

- 画像や映像でないと表現できないデジタルコンテンツの収集
- ボーンデジタル資料の積極的な収集

#### 紙資料・電子資料の保存・提供

- 紙資料の収集・保存及び収蔵機能の確保  
(防災・減災を重視した立地での収蔵も検討していく)
- 大量のデータを安定的に保存・提供することができる環境の整備
- 他機関と連携したコレクション構築 (国立国会図書館のデジタル資料との棲み分け、全国的な共同保存、出版社との協力連携など)

# (2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進

## イ 都立図書館ならではの特色あるコレクション

- ▶ 都立図書館独自のコンテンツを積極的に収集し、特色あるコレクションを構築する。

### 将来の都立図書館で実現すべきコレクションの姿

他館にはないオリジナルコンテンツを収集する仕組みを構築しているとともに、都立図書館のコレクションのユニーク性が広く認知されている。

- 江戸東京、ビジネス、法律、健康・医療関係など、これまで重点的に収集してきたコレクションを継続して拡充している。
- 都民をはじめ利用者の研究・交流を支援し、知識を生み出す図書館として、ワークショップの成果など、都民が作成したコンテンツを幅広く収集している。
- 都立図書館ならではのユニークなコンテンツを収集している。

### 具体的な取組例

#### 都立図書館の強みとなる資料の収集

- 重点的情報サービス分野の資料の継続的な収集
- 都政資料のWeb情報（データ）の収集

#### 都民コンテンツ等の幅広い収集

- 図書館主催ワークショップのアウトプットや成果のアーカイブ化
- 他機関とも連携した、都民・利用者からコンテンツやデータを収集・提供することができる仕組みの構築

#### 都立図書館ならではのユニークなコンテンツの収集

- 都民や東京を訪れる人々の記録等、東京に関する幅広いコンテンツの収集
- 東京に関する映像、音など

# (2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進

## ウ コレクションの利用促進

- ▶ 資料デジタル化、デジタルコンテンツ収集を推進し、利用しやすい形で提供する。

### 将来の都立図書館で実現すべきコレクションの姿

デジタル資料や関連するデータを積極的に収集・保存し、誰もが自由に、利用しやすい形で提供している。

- 紙と電子の良さを活かしたコレクションになっている。また、国内外の図書館等の幅広い情報にアクセスできるようになっている。
- 東京に関する資料やデータ等が、オープンデータ※として提供されている。オープンデータの利用条件が誰にとってもわかりやすく、活用しやすくなっている。
- デジタル資料等はリモート利用が可能になっている。また、デジタルコンテンツはモバイル機器等に即座に配信されている。

※オープンデータ・・・国、地方公共団体及び事業者が保有する官民データのうち、国民誰もがインターネット等を通じて容易に利用（加工、編集、再配布等）できるよう、次のいずれの項目にも該当する形で公開されたデータをオープンデータと定義する。

①営利目的、非営利目的を問わず二次利用可能なルールが適用されたもの②機械判読に適したものの③無償で利用できるもの（参照：オープンデータ基本指針（平成29年5月30日高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部・官民データ活用推進戦略会議決定））

### 具体的な取組例

#### 利用しやすいインタフェイスの構築

- 検索しやすく、多言語に対応している等、誰にとっても使いやすいインタフェイスの構築

#### オープンデータの取組の推進

- 江戸東京関係など、都立図書館の持つ貴重資料を活かしたオープンデータでの提供
- 研究者が調査分析した東京に関するデータの収集、活用のためのデータ提供
- わかりやすい利用条件の表示

#### リモート利用の推進

- 特別文庫資料と東京関係資料を中心とした紙資料のデジタル化の推進
- デジタル資料の提供に向けた、出版社との調整

# (3) 東京の図書館ならではの施設・運営の追求

## 将来の都立図書館で実現すべき施設・運営の姿

- 調査研究型図書館として、都民や都に集積する多くの大学・研究機関、出版社やIT企業等、産学官民連携を図りながら、高度なサービスを提供する体制が整っている。
- 高齢者や外国人等、どこでも誰もがサービスを楽しむよう、様々な機関や専門家との協力連携を行っている。
- 図書館でのDX、サービス実現に必要なシステムの整備を推進するとともに、来館者の調査研究と創造・発信・交流を支援するために必要な施設・設備が適切に確保されている。
- これらのサービス、コレクションを展開していくための人材を確保・育成している。



産学官民連携



DXの推進

- (1) デジタル技術を駆使したサービスの充実
- (2) デジタル資料を含む特色あるコレクション・利用促進を実現するための施設、協力連携体制

- 将来の都立図書館で実現すべきサービス、コレクションに向け、都民や他機関等との連携を想定しつつ、以下3つの観点から、必要な施設・運営について検討していく。

**ア 東京という立地・規模を生かした協力連携体制、イ 創造・発信・交流を支援する図書館施設、ウ 職員の専門性を生かした図書館運営**

# (3) 東京の図書館ならではの施設・運営の追求

## ア 東京という立地・規模を生かした協力連携体制

- ▶ 東京に集う多様な都民・団体との産学官民連携を行い、東京都の図書館ならではの取組を行う。

### 将来の都立図書館で実現すべき施設・運営の姿

産学官民連携の在り方が整理され、東京の図書館としての協働、連携協力の体制が整っている。

- 都の長期戦略を情報面から支えることができる図書館となっている。
- 区市町村立図書館等との協力連携については、都立図書館がリーダーシップを発揮し、新たな政策立案をしている。
- 首都・東京の図書館として、全国の公共図書館への影響力を認識し、各種取組を行っている。

### 具体的な取組例

#### 実現すべきサービスに向けて

- 都民との協働（図書館と都民、都民どうしをつなぐ「ライブラリーコミュニケーター」、都民が主体的に参加できる機会の創出）
- 区市町村立図書館をはじめとした関係機関と連携した事業展開
- 海外の図書館との連携協力における国内図書館の先導

#### 実現すべきコレクションに向けて

- コンソーシアムの立上げ等による関係機関との情報共有システム構築
- デジタルコンテンツ提供に関わる、出版社との実証実験等
- 区市町村立図書館との連携協力の展開  
（各館が有するデジタルコンテンツのデータ共有等）

# (3) 東京の図書館ならではの施設・運営の追求

## イ 創造・発信・交流を支援する図書館施設

- ▶ 調査研究を支援する機能を強みとして一層強化しつつ、創造・発信・交流を支援する。

### 将来の都立図書館で実現すべき施設・運営の姿

DXを推進する東京にふさわしい図書館施設として、長期的に必要な機能を備えている。

- 2020年以降の都道府県立図書館において求められる必要な施設規模に基づき、整備されている。
- 都民はもとより、海外からの来訪者なども呼び込み、創造・発信・交流等の図書館機能を発揮できる機能を備えている。また書庫・ストレージの拡大にも対応している。
- AI時代の都立図書館として、都内外と連携しながら、施設の休館時でも、常時サービスを提供している。
- システムやデジタル設備も十分に考慮され、図書館の将来を見据えたDXが実現している。

### 具体的な取組例

#### 実現すべきサービスに向けて

- 施設の形態・立地については複数の選択肢を持って検討
  - 単館のほか、複合施設への入居による同居施設との連携の可能性
  - 収蔵庫の分離や、複数のサービスポイント設置の可能性
- 適切な立地要件（アクセスの良さ、水害等の影響の考慮等）

#### 実現すべきコレクションに向けて

- 迅速な資料入手、調査研究・レファレンスサービスに必要な資料収蔵の機能について、これまでの強みの継承・拡大
- コレクション拡大に向けて、必要な規模の書庫・ストレージを確保

※取組例はあくまで一例であり、立地条件等により総合的に検討していく

# (3) 東京の図書館ならではの施設・運営の追求

## ウ 職員の専門性を生かした図書館運営

- ▶ これまで発揮してきたレファレンス等の専門性を基盤にしつつ、今後担うべき職務に必要な人材を確保・育成する。

### 将来の都立図書館で実現すべき施設・運営の姿

都立図書館に今後求められるサービス、コレクションを実現するための人材が確保・育成されている。

- 高度な調査研究相談にきめ細かく対応するレファレンスサービス等を担う司書の専門性を継承し、発展させている。
- 産学官民連携を適切に行いながら、デジタル技術を駆使したサービス、デジタル資料を含む特色あるコレクションに係る職務を担う人材を確保・育成している。
- 職員は、積極的に都の持つノウハウや図書館に資する調査研究の成果を発信している。

### 具体的な取組例

#### 実現すべきサービスに向けて

- 高度なレファレンス能力等の専門性を持つ司書の育成
- 専門性を持った人材の確保・育成
  - デジタル技術に精通した人材
  - 多様な主体と連携・協働できる人材
  - 企画調整能力を持った人材
- 民間での研修や人事交流等による人材育成
- 図書館職員、民間活力の活用、都民との協働等、それぞれの人材が担うべき領域の整理
- 資料保全に関する技術・ノウハウの継承

#### 実現すべきコレクションに向けて

- デジタル・知的財産関連の人材などの確保

※取組例はあくまで一例であり、詳細については今後検討していく